

■ 概況

3/19~3/25のNYMEX・WTIは、22.43~25.22ドルの範囲で推移した。

3月26日は、国際エネルギー機関(IEA)のピロル事務局長が新型コロナに伴う世界各地30億人の外出制限で世界の石油需要が2000万BD減少すると発言するなど、需要見通しの悲観論から、4営業日ぶりに反落した。5月限終値は前日比1.89ドル安の22.60ドル。

週末27日は、昨日の発言に加え、ピロル事務局長はサウジに市場安定への取り組みを呼びかけたが、サウジの増産姿勢は固い模様で、供給過剰感が強く、続落した。ペーカーヒューズ社発表の米国稼働石油掘削機は624基と原油価格暴落の影響で前週比40基減の大幅減少だった。5月限終値は前日比1.09ドル安の21.51ドル。

週明け30日は、トランプ大統領が国民の行動制限を当初の3月末から4月末まで延長したこと、また、週末サウジがロシアとの減産協議を否定したこと、一段と供給過剰感が高まったことから、3営業日続落した。一時は、20ドルを割り込み、18年ぶりの安値19.27ドルを記録した。5月限終値は前週末比1.42ドル安の20.09ドル。

31日は、トランプ米大統領とブーチン露大統領が電話会談で石油市場安定に向けた閣僚級会合開催に合意したことを好感して、上値は重かったものの、4営業日ぶりに反発した。5月限終値は前日比0.39ドル高の20.48ドル。

4月1日は、米国エネルギー情報局(EIA)の週報で、前週末の原油在庫が前週末比1380万バレル増加と2016年10月以来の積み増しとなったことから、小反落となった。5月限の終値は前日比0.17ドル安の20.31ドル。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(5月渡し)は3月19日~25日の間25.70~27.20ドルの範囲で推移した。3月26日26.70ドル、27日25.60ドル、30日23.50ドル、31日24.30ドル、4月1日24.90ドルと推移した。

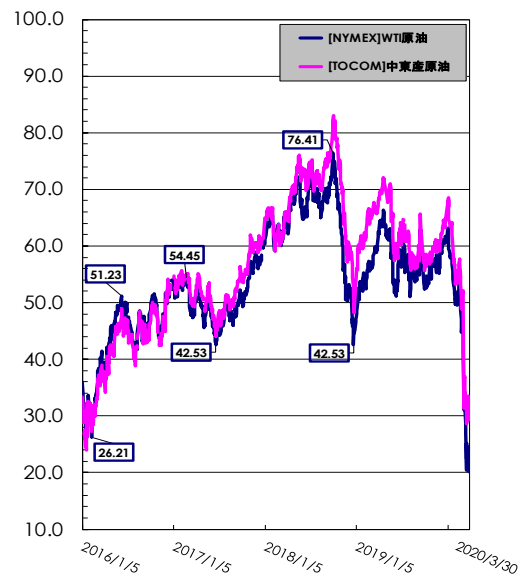
為替は3月19日~25日の間108.98~111.16円の範囲で推移した。3月26日110.77円、27日108.95円、30日107.68円、31日108.83円、4月1日107.59円で推移した。

財務省が3月27日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、3月上旬の原油輸入平均CIF価格は、46,350円/klで、前旬比1,829円安、ドル建て66.70ドルで前旬比3.14ドル安。為替レートは1ドル/110.47円。

そのような中で、3月30日時点の小売価格は、ガソリンが前週比3.3円の値下がり、軽油も同3.1円の値下がり、灯油は38円の値下がり(18%ベース)だった。ガソリンは10週連続の値下がり、軽油は9週連続の値下がり、灯油も9週連続の値下がりだった。この週(3月第5週)の原油コストは大きく値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社1.5円の値下げとなった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/22 ~ 3/28	3,132 ▼ -5	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	80.0 ▼ -0.1	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	3/28	12,223 ▲ 425	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	3/30	29.31 ▼ -1.19	▼ -37.7
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	3/30	20.09 ▼ -3.27	▼ -41.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月上旬	66.70 ▼ -3.14	▲ 1.01
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	46,350 ▼ -1,829	▲ 415
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	110.47 ▼ -0.78	▲ 0.70
	外国為替TTSレート (¥/\$)	3/30	108.68 ▲ 3.14	▲ 3.42

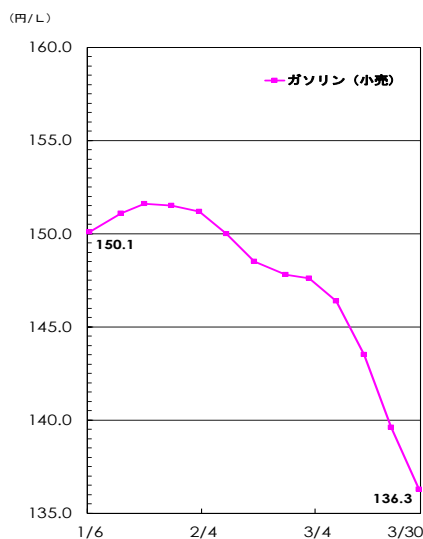
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/22 ~ 3/28	906 ▲ 47	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	801 ▼ -25	▼ -	
	輸出	"	100 ▲ 20	▼ -	
	在庫	3/28	1,775 ▲ 5	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/24 ~ 3/30	38.2 ▼ -2.6	▼ -23.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/24 ~ 3/30	31.2 ▼ -1.4	▼ -26.6
		(TOCOM/中部)	3/30	32.0 ▼ -6.2	▼ -28.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/30	136.3 ▼ -3.3	▼ -9.8	

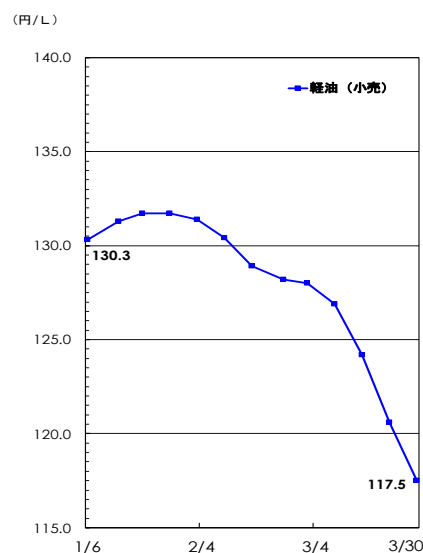
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

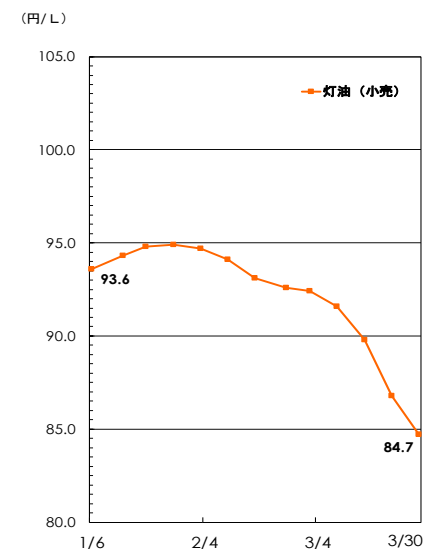
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/22 ~ 3/28	792 ▲ 76	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	594 ▲ 5	▼ -	
	輸出	"	268 ▲ 215	▼ -	
	在庫	3/28	1,401 ▼ -70	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/24 ~ 3/30	40.5 ▼ -4.4	▼ -24.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/24 ~ 3/30	42.8 ▼ -5.6	▼ -22.1
		(TOCOM/中部)	3/30	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/30	117.5 ▼ -3.1	▼ -9.4	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/22 ~ 3/28	318 ▲ 50	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	287 ▲ 32	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	3/28	1,422 ▲ 31	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/24 ~ 3/30	40.2 ▼ -3.7	▼ -24.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/24 ~ 3/30	35.2 ▼ -1.8	▼ -27.2
		(TOCOM/中部)	3/30	38.0 ▼ -0.5	▼ -24.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/30	84.7 ▼ -2.1	▼ -5.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

4月1日のNYMEX市場WTI原油は、この日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の週報で、前週末の原油在庫が前週末比1380万バレル増加と2016年10月以来の積み増しとなり、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が一段と明確となったことから、小反落となった。また、この日トランプ大統領がエネルギー大手首脳と業界支援策を協議したと伝わり、一時は上昇した。5月限の終値は前日比0.17ドル安の20.31ドル、6月の終値は同0.77ドル安の23.74ドル。

EIAによると、3月30日時点のガソリンの小売価格は、前週比11.5セント値下がりの1ガロン2.005ドル(57.5円/ℓ)、

ディーゼルは同7.3セント値下がりの2.586ドル(74.2円/ℓ)となった。ガソリンは5週連続の値下がり、ディーゼルは12週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年3月22日～3月28日に休止したトッパー能力は30.1万バレル/日で、前週に対して5.9万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は313.2万klと、前週に比べ0.5万kl減少。前年に対しては35.7万klの減少。トッパー稼働率は80.0%と前週に対して0.1ポイントの減少、前年に対しては9.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、C重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/5.5%増、ジェット/45.3%減、灯油/18.6%増、軽油/10.7%増、A重油/3.4%増、C重油/7.1%減。今週のC重油の輸入は0.5万kl(前週比0.5万kl増)。軽油の輸出は26.8万kl(前週比21.5万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比で灯油、軽油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比では全ての油種で減少となった。ガソリンの出荷は80.1万kl(対前週3.1%減)と2週振りで減少となり、32週連続で100万klを下回った。ジェット7.2万kl(対前週30.7%減)、灯油28.7万kl(対前週12.6%増)、軽油59.4万kl(対前週0.8%増)、A重油19.0万kl(対前週2.2%減)、C重油8.7万kl(対前週53.5%減)。

(単位:千KL)

	今週 (3/22 ~ 3/28)	前週 (3/15 ~ 3/21)	前週比	
ガソリン	801	826	▼ -25	(-3%)
ジェット燃料	72	103	▼ -31	(-30%)
灯油	287	255	▲ 32	(13%)
軽油	594	589	▲ 5	(1%)
A重油	190	195	▼ -5	(-3%)
C重油	87	186	▼ -99	(-53%)
合計	2,031	2,154	▼ -123	(-6%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月28日時点の在庫は、ガソリン、灯油、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはA重油、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは177.5万kl、前週差0.5万kl増。前年に対しては15.6万kl多い。

灯油は142.2万kl、前週差3.1万kl増。前年に対しては9.1万kl多い。

軽油は140.1万kl、前週差7.0万kl減。前年に対しては6.6万kl多い。

A重油は71.7万kl、前週差1.6万kl増。前年に対しては3.9万kl少ない。

C重油は170.2万kl、前週差6.7万kl減。前年に対しては20.2万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (3/28)	前週 (3/21)	前週比	
ガソリン	1,775	1,770	▲ 5	(0%)
ジェット燃料	813	887	▼ -74	(-8%)
灯油	1,422	1,391	▲ 31	(2%)
軽油	1,401	1,471	▼ -70	(-5%)
A重油	717	701	▲ 16	(2%)
C重油	1,702	1,769	▼ -67	(-4%)
合計	7,830	7,989	▼ -159	(-2.0%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月24日～30日の原油価格は、前週比で値下がりし、為替の円安がややこれを相殺したが、原油コストは値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、3月24日～30日の間、ガソリン91～93円台で値下がり後ほぼ横ばい、軽油39～42円台で値下がり後ほぼ横ばい、灯油39～42円台で値下がり後ほぼ横ばいで推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン92～95円台で値下がり、軽油41～44円台で値下がり、灯油31～35円台で

値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン81～87円台でわずかに値上がり後大きく値下がり、軽油40～44円台でわずかに値上がり後大きく値下がり、灯油32～36円台でわずかに値上がり後大きく値下がりして推移した。

次週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社1.5円の値下げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

3月24日～30日の製品スポット市況は、3月17日～23日平均と比べ、全油種・全取引で、大きく値下がりした。

直近の陸上スポット価格(3/24～3/30、千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは2.6円の値下がり、灯油は3.7円の値下がり、軽油は4.4円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは2.6円の値下がり、灯油は3.5円の値下がり、軽油は3.5円の値下がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが1.4円の値下がり、灯油は1.8円の値下がり、軽油は5.6円の値下がりだった。

4月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.5円の値下げになった。

(RIM) (単位: 円/ℓ)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (3/24 ~ 3/30)	前週 (3/17 ~ 3/23)	前週比
レギュラー	38.2	40.8	▼ -2.6
灯油	40.2	43.9	▼ -3.7
軽油	40.5	44.9	▼ -4.4

(TOCOM) (単位: 円/ℓ)

[期近物/終値] [平均]	今週 (3/24 ~ 3/30)	前週 (3/17 ~ 3/23)	前週比
レギュラー	31.2	32.6	▼ -1.4
灯油	35.2	37.0	▼ -1.8
軽油	42.8	48.4	▼ -5.6

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/24～3/30実績値) (単位: 円/ℓ)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -2.6	▼ -1.4	▼ -2.0
灯油	▼ -3.7	▼ -1.8	▼ -2.8
軽油	▼ -4.4	▼ -5.6	▼ -5.0
A重油	▼ -4.5		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

3月30日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比3.3円安の136.3円、軽油も同3.1円安の117.5円、灯油は18ℓベースで同38円安の1,524円(1ℓベースでは同2.1円安の84.7円)。ガソリンは10週連続の値下がり、軽油は9週連続の値下がり、灯油も9週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりはなし、横ばいもなし、値下がり47都道府県となった。全国最安値は岩手県の129.0円(同4.9円安)、その次に安いのが秋田県と鳥取県の129.3円(各々同6.0円安・5.6円安)、最高値は長崎県

の151.3円(同2.7円安)。横ばいはなし、値上がりもなし、最も値下がりしたのは同7.6円安の山梨県(134.0円)だった。

先週の原油コストは値下がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とも、全社3.0円の値下げとなった。今週も、原油価格は値下がりし、円安がこれをわずかに相殺したが、原油コストは値下がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.5円の値下げとなった。次回調査時(4月6日)のガソリンの小売価格は、値下がりが見込まれる。

(資工庁公表) (単位: 円/ℓ)

[週動向]	今週 (3/30)	前週 (3/23)	前週比	直近高値
レギュラー	136.3	139.6	▼ -3.3	08/8/4 185.1
灯油	84.7	86.8	▼ -2.1	08/8/11 132.1
軽油	117.5	120.6	▼ -3.1	08/8/4 167.4

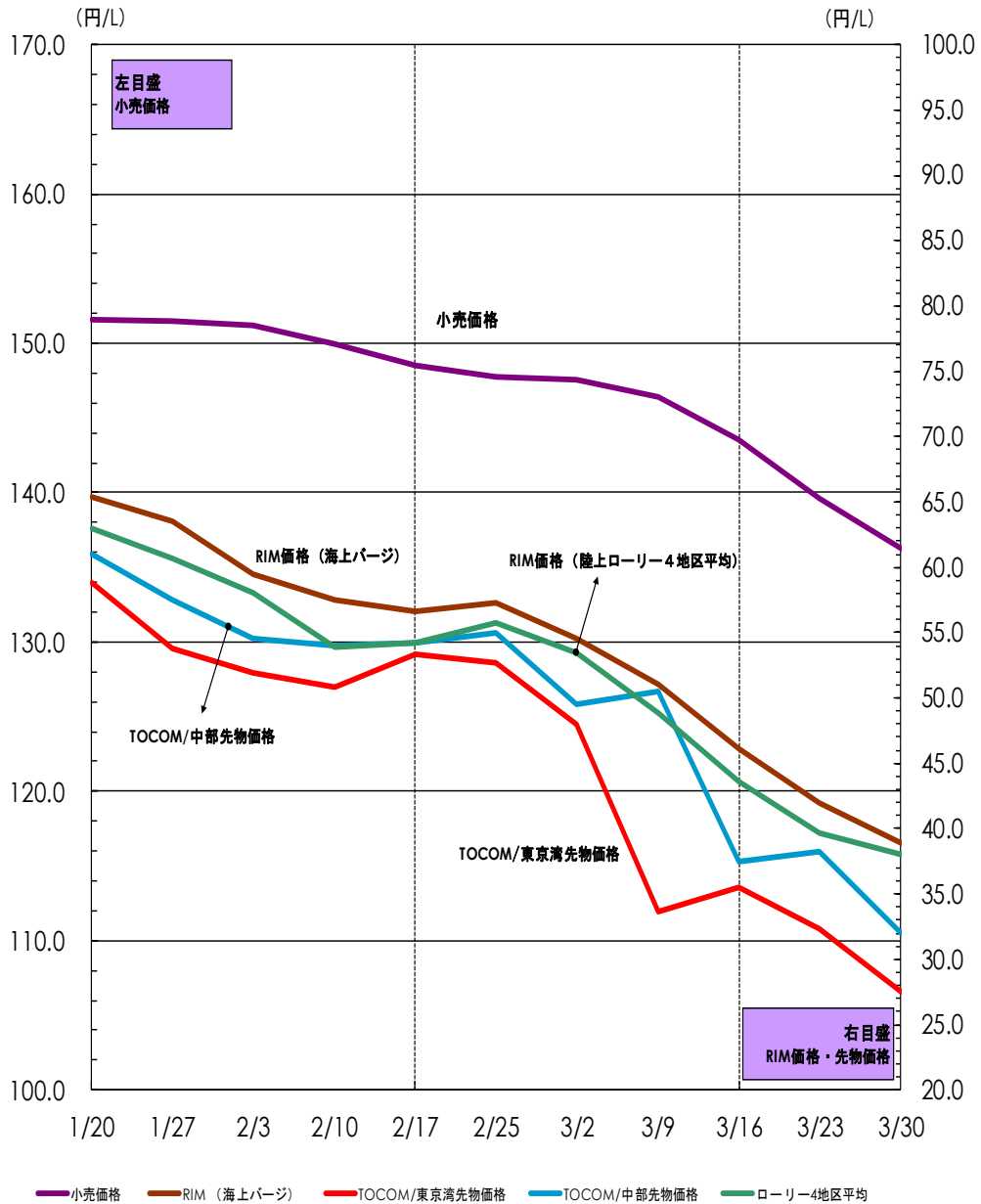
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2020/1/20 ~ 2020/3/30)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2020第2号)の公表は、4/10(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和元年9月末現在)は、12月25日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。